

土佐の芸術文化を巡る 朝倉神社「絵金派・芝居絵屏風」

8/10_11
2024

闇夜を彩る文化財

毎年7月24日に行われる、朝倉神社の夏祭り。夏祭りの日には、神社の長い参道に計6つの大型絵馬台が組み立てられ、幕末の土佐で活躍した芝居絵師・絵金や絵金派による芝居絵屏風が飾られる。

赤や緑などの鮮やかな色彩と大胆な構図を特徴とする芝居絵屏風。極彩色で描かれた歌舞伎や浄瑠璃の芝居が宵闇の中、提灯のほのかな灯りで浮かび上がり、我々にその独特な世界観を魅せてくれる。夏祭りに芝居絵屏風を飾る習慣は幕末より続く土佐独特の形式であるが、戦後頃から減少し始め、現在では県内10か所の神社でのみ行われている。朝倉神社はそのうちの1つで、夏祭りとともに周辺地区が持ち寄り、全24点の芝居絵屏風を楽しむことができる。本企画では朝倉神社の絵金芝居絵屏風と夏祭りに焦点を当て、年に一度の高知にしかない風景を皆様にもお届けしたいと思う。

高知大学大学院
スポーツ・芸術文化共創専攻
文化財保存科学研究室
修士課程1年 高林奈都子

会場：高知大学共通教育棟2号館

主催：高知大学総合人間自然科学研究所スポーツ・芸術文化共創専攻文化財保存科学研究室